

vol.28

2017 年 2 月

からしだね



与える福祉ではなく、その人にとって必要なことをそのひとの自立に向けて支援する

こいしろの里 ホームページ公開中！

<http://betesta.org>

こいしろの里

検索



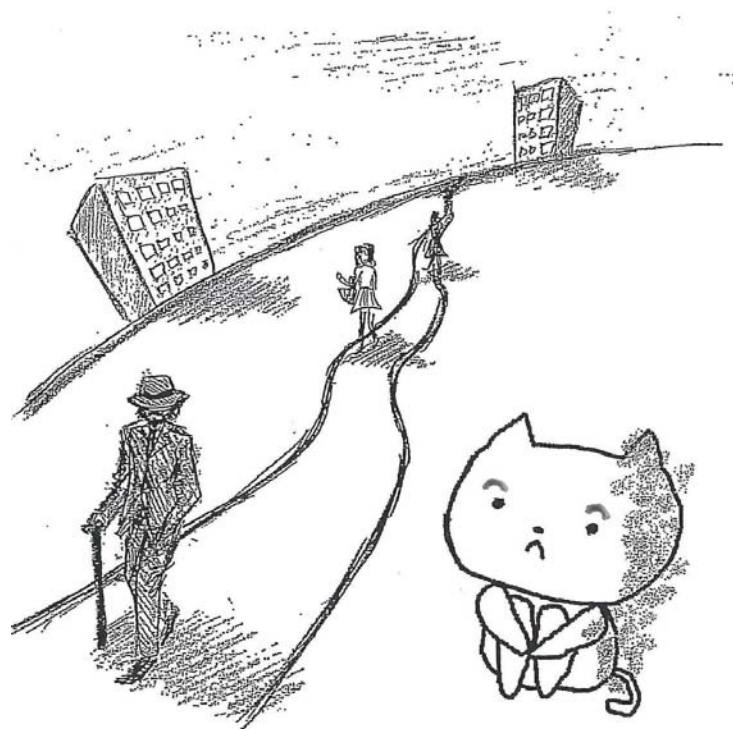
住みなれた場所を離れて旅に出る。そうして初めての駅で降り駅前の雑踏をながめている——そうやって人を観察するようにながめてみるくらいでないと、改めて人が幸せかどうか他者に対して考えてみることはむずかしいのかも知れない。個人的な年齢のせいもあるのかも知れないが、私たちはあまりに身近な人々については距離感を忘れてしまうほど慣れてしまうのではないだろうか。身近な人々というのはたいてい家族や友人たちを意味するのだが、それでは入所している利用者は私たち施設の職員にとってどのような距離感なのだろうか？

はたして職員に利用者がどのように映っているのか疑問をもった私は、昨年から当施設で利用者を対象として「しあわせ度チェック表」というのを実施している。24時間を縦のY軸としてそこに日課をカテゴリー別にして、その時間単位で利用者個別に職員が「しあわせ度」を1から5まで数字で示してみるという試みだ。もっとも最初は「しあわせ度」ではなく、「満足度チェック表」でスタートした。ところが「満足度」でいくと、日課のカテゴリー別に、その日課に対して満足できているか否かが基準となってしまった。それは日課に対する利用者自身の満足度ということになり、それでは職員の認識を示すことにはならない。そこで「満足度」から「しあわせ度」に変更をしたのだ。しあわせかどうかの対象者は利用者であるが、それを判断するのはあくまで職員の価値観による選択になる。これは算数の問題じゃないので正否の回答があるわけではない。ただ職員自身の価値観で「しあわせ」という抽象的なものを対象である利用者に重ねることで、それまで不可視的になっていた利用者の人間性に個々の職員がせまることができるのではないかという取り組みである。

そもそも「しあわせ度」について考えてみるというのは抽象的ではあるが福祉の原点といえなくもあるまい。そう期待しながらチェック表をみたら嘔然となる数値がならんでいた。それは圧倒的に「3」なのである。5段階の数値には

1が「不幸」で5が「幸せ」、そして3が「普通」と記されている。そうすると数値は「3」の「普通」が圧倒的に多いのだ。これは何を意味しているのだろうか？

陳腐な解釈をするならば、「しあわせ度」についてはわからないので、とりあえず「1」でも「5」でもない中間的な「3」としているのか？もしそうだとするならば、これは「しあわせ度」チェック表に対する価値観の選択を放棄した単なる業務怠慢だ。しかし仮にそうであったとしても、それでは「普通のしあわせ」とは何を意味するのか？そもそも「しあわせ」に「普通」がありえるのであろうか？「5」のしあわせでもない。さりとて「1」の不幸でもない。そんな価値観がありえるだろうか？そういえばかつ





て小椋佳が「白い一日」という唄で、♪ありふれたしあわせにもちこめればいいのだけれど、と歌ったが、「普通のしあわせ」と「ありふれたしあわせ」とは意味がちがう。ましてや入所している利用者に「普通のしあわせ」というのは、もっとも遠い概念ではあるまいか。

そうやって利用者について職員と何度も語ることができるのが、この「しあわせ度」チェック表の狙いでもある。たとえば医療や介護の基準は、あまりにも機械的かつ無味乾燥でそこに人間味があるようには思われない。そもそも ADL 自体に意味などない。基本動作で何をするのかという点が大切なのであって、その目的を考えない ADL などは福祉による独善的本末転倒といえ言い過ぎだろうか。

「しあわせ度」チェック表は、職員の価値観を利用者に重ねあわせる点に意義がある。たとえば仮にコップに水が半分だったとしても、そのまま忠実に「半分の水」と評価する人はいないといわれている。たいてい生活の中では、「コップ半分の水」に対して、「まだ半分ある」か、「もう半分しかない」のどちらかに

なると示唆されている。つまり同じ条件、同じ環境であったとしても、それをどのように感じるかで、「しあわせ度」は 180 度反転してしまうものだと考える。晴れだろうが雨だろうが、夏だろうが冬だろうが、しあわせな人というのは一貫してしあわせであり、不幸な人というのは何がどうなってもやはり不幸にちがいないのだ。「幹」がしあわせなら枝葉もしあわせ。「幹」が不幸なら枝葉も不幸になる。これは健全者の状況であるが、障害ある利用者も基本的には健全者と「しあわせ度」における心理的構造は変わることがないと考えている。ただ利用者の感じ方に障害特性がどのような影響を与えているのかということこそ私たちは解明する必要があるのではないかな。なぜなら私たちの利用者に対する支援とは、本人にしあわせを感じてもらうための支援だからだ。

2017 年は、利用者にとくさんのしあわせを感じていただける支援をさらに具体化していきたい。



11月13日に『こいしろの里 秋のうまいもん祭り』を盛大に開催しました。当日は天候に恵まれ、これ以上ないくらいの快晴でした。施設長による開催宣言とともに、今回の新兵器「ぽん菓子機」の轟音が鳴り響きました。それからは、三重大アンサンブル・ドリーム・ダイゴロー21・スマイルクライ・松山バンド・古立ファミリー SHOWA バンドなど、それぞれ素晴らしい演奏でイベントに彩りを加えてくれました。ご来場くださったお客様が会場一体となって、音楽に合わせて体を揺らしていました。

ライブの合間に、女性職員による二胡の演奏もありました。幻想的で幽玄な音色に会場は艶やかな雰囲気になりました。

また今回は、なんと松阪南消防署さんに消防車の展示をしていただきました。遊びに来てくれた子供さんたちは嬉しそうに記念撮影をしてました。ステージの上では消防士さんに『防火』についてのお話をしていただき、火事を起こさないために気をつけること、起きた場合の対処法などをクイズ形式で説明していただきました。

屋台では、職員が腕によりをかけて調理した食べ物を提供しました。いか焼き・唐揚げ・フライドポテト・揚げパン・さんまの醤油焼き・甘酒スモージー・ぶり大根・おでん・甘酒・ぜんざい・焼きいも・竹筒ようかん・しゃけご飯など、過去最高の品数と内



容でした。お客様たちも、それぞれに舌鼓を打っておられました。特に唐揚げ・フライドポテト・竹筒ようかんは、屋台前に行列ができて、あっという間に完売となりました。屋台を担当してくれていた利用者の皆さんもお客様に「いらっしゃいませー、ありがとうございましたー。」と元気いっぱいので接客をしていていました。その元気の良さに心あたたまりました。

開催については、新聞などで取り上げていただき、たくさんのお客様に足を運んでいただくことができました。こいしろの里は、今後も地域の皆様と交流を図らせていただき、成長できるよう頑張っていきます。

うまいもん祭りは利用者の皆様・ご来場のお客様・各関係者の皆様のご協力と笑顔に支えられ、そして励まされて大成功を収めることができました。来年も皆さんに喜んでいただけるように精進していきます。今後とも、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。





ご来場
ありがとうございました



“青空福祉会”を前回のからしだね vol.27 (2016年9月)の裏表紙で皆様にご紹介させていただきましたが、いよいよこの4月にこいしろの里ケアホーム前に“障害者通所施設まある”が完成します。日に日に建屋が形になってくることで、私たち職員も希望と期待で心が弾み、わくわくしています。

私たちが自信を持って開設する“通所施設まある”を皆様により深くわかっていただきたく、特徴や機能、目指す方向をお伝えし、皆様にも私たち職員と同じように希望と期待で心弾ませ、わくわくしていただきたいと思います。

“障害者通所施設まある”の名前の由来とキャッチフレーズをご紹介します。まず、名前の由来は施設の形を見れば一目瞭然、施設全体が回廊となっており、施設内をぐるりとまわれ、どこからでも利用者さんの顔が見られる造りにしています。何より社会福祉法人ベテスタの名の由来であるベテスタの泉や建物をイメージして設計されています。そして、キャッチフレーズも名前通りに「まわるよまわる笑顔の輪、みんなの笑顔が輝く場所」。施設に来られる方、関わっていただく方がみんな笑顔になれる施設を目指しています。また、“まある”と言う名前には色々な期待を込めて、何事も“良し”の「〇」、回りまわる「円」、色々な方と繋がる「縁」と言う意味も含んでいます。“障害者通所施設まある”に対する期待がこんな風に名前に込められ、みなさんもわくわくしませんか？

そんな素晴らしい名前の“障害者通所施設まある”の特徴や機能、目指す方向性を紹介します。目指す方向性は名前の1つの由来のように「縁」を大切に、障害がある方はもちろんのこと、他にも地域の住民の方などの色々な方が集える場所にしていきます。福祉サービスの放課後等デイサービス、就

労移行支援、就労継続支援B型という3つの事業を行うので、小学校1年生から大人までの幅広い方が利用でき、何よりも小さい年齢から就労を意識し、自立を目指せるように療育・支援を行う特徴や機能を持っています。

学就支援を大切に、学びを「できる」に、作るを「就る（つくる）」へ目指していきます。

放課後等デイサービスでは自立支援を中心に、子どもたちがのびのびと過ごせるスペースを作り、基礎体力や身体能力を伸ばせられるようにボルタリングやハンモックを用意しています。また、学習ルームもあり静かに勉強できる空間を用意しています。「静」と「動」、メリハリをつけられるような造りとなっています。

就労移行支援、就労継続支援B型では複合的訓練を行い、給料の高い、質の高い仕事を行うことで一般就労を目指していきます。軽作業が行える作業場、パン製造室、調理室、喫茶ルームで働くことに対し、



“まある”のロゴ

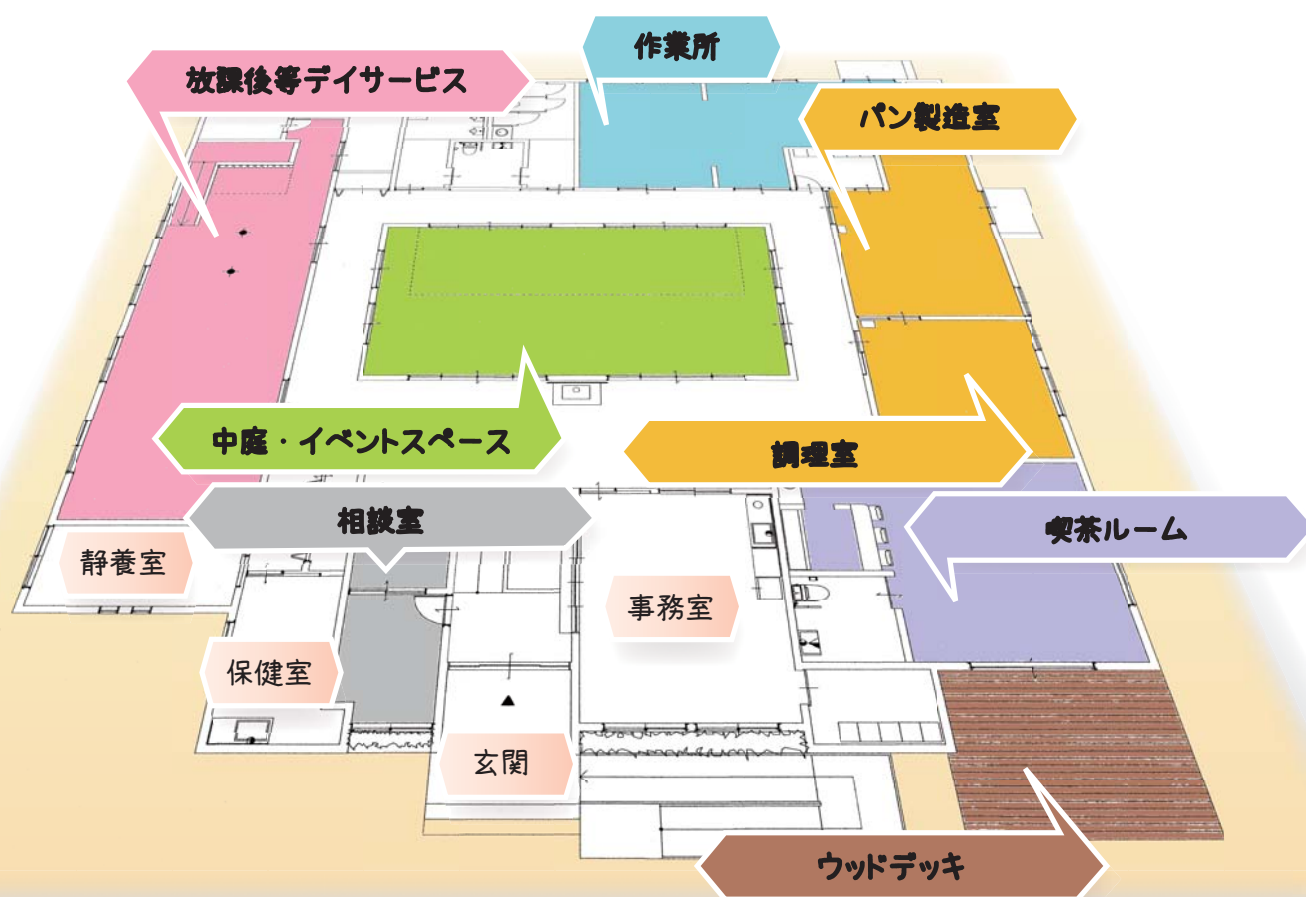
難しさはでてくるかもしれませんが。その難しくてできなかったことが徐々にできるようになり、それが喜びとなるよう訓練・支援し、どこに行っても働けるようにしていきます。また、作業内容としても、こいしろの里独自の加工食品を製造していき、喫茶ルームにて障害のある方が接客業として販売し、地域の方が集い、寛げる場所にしていきます。

他にもこいしろの里には何でも相談できるベテスタ相談支援センターがあります。地域を巻き込み、他の事業所と連携し、障害者支援施設こいしろの里と“障害者通所施設まある”を最後の砦として、利用者一人ひとりを大切にし、幸せになれるように将

来を見据えたサポートをしていきます。

“障害者通所施設まある”の目指す方向性が、絵に描いた餅にならないよう、こいしろの里は今後も日々精進して療育・支援に取り組んでいきますので、2017年4月に開所する“障害者通所施設まある”を期待しててください。

2017年4月はきっと皆様の笑顔と感動の渦に巻き込みます。必ず！



“まある”の見取り図

12月17日に2016年最後の一大イベントになるクリスマス会を行いました。

まずは、松阪社協さんのゆるきゃら福っきーが利用者さんをイベント会場まで一緒に誘導し、利用者さん・保護者の方々・職員など全員で記念撮影をしました。

そこから司会の「クリスマス会の始まりです」の合図でクリスマス会がスタートしました。毎年、クリスマス会の目玉である劇を始め、今年も職員が利用者さんや保護者の方々に楽しんでもらえるよう一生懸命出し物の練習を行いました。

初めに、ハンドベルと紙芝居をしました。こいしろの里の利用者さんが紙芝居に登場し、自分の名前が呼ばれた利用者さんは嬉しそうにしていました。ハンドベルの演奏では「きらきら星」を演奏し、聖なる夜を彩る音色が会場に響き渡りました。みんなで合唱もしました。「雪やこんこあられやこんこ」「大きな栗の木の下で」「ジングルベル」「大きな古時計」を合唱しました。この日の為に練習してきたので、みなさん大きな声で上手に歌いきることが出来ました。一年間の思い出を写真でふりかえった後、「世界にひとつだけの花」の曲に合わせて利用者さん全



員の一人一人の笑顔の写真を映しました。来年も利用者さんがたくさんの笑顔で溢れる一年になるようにと思いました。いよいよメインイベントである劇です。今年の内容は「ロミオとジュリエット」です。ロミオとジュリエットは世界中で形を変えて演じられ続けています。今回のロミオとジュリエットも少し形を変えたお話しで、涙あり笑いありの見ごたえ十分なストーリーに利用者や保護者の皆さんに笑顔も見られ、とても喜んでみえました。

どの利用者さんも楽しんでおられる様子でとてもよかったです。来年は今年よりももっとたくさんの利用者さんの笑顔がみられるような楽しいイベントを考えていき、さらに余暇活動を充実していけたらいいなと思います。

参加していただいた保護者の皆様、関係者の方々ありがとうございました。また来年度もよろしくお願い致します。





ENJOY !
CHRISTMAS PARTY!!!



年末恒例のイベント「もちつき大会」が12月30日に開催されました。今年は快晴の空の下、施設食堂前のテラスに利用者さんが集合し、全員参加で楽しみました。

餅つきのはじまりです。職員が小ツキをして、ある程度粘りが出ると、利用者さんがひとりずつ杵を受け取っては臼の前に立ち、サポートをする職員の手を借りて「よいしょ〜っ、よいしょ〜っ」と力強く杵を振り下ろしました。杵を持つ利用者さん、掛け声をかける利用者さんそれぞれに、みんなで盛り上がりました。

つき上がった餅は、あんころ餅、きなこ餅、青のり餅、大根おろし餅の四種類の餅に大変身！！自分たちでついたお餅は、さぞおいしかったことでしょう。みなさん「おいしい、おいしい」と満足そうな笑顔で食べていました。

もちつき大会は利用者の方にとって新年を迎える前の特別な行事なので、これからも続けていきたいと思っています。



今年も元旦に利用者さんと一緒に多気の丹生大師へ初詣に行きました。天気にも恵まれ、穏やかな陽の光の下、心清らかな気持ちで参拝ができたと思います。

参拝では、利用者さんそれぞれが今年頑張ることを祈っていました。利用者の皆さんには今年も健康で元気に過ごしていただきたいと思います。

年末年始に入所の利用者さん全員が帰省できるわけではありません。こいしろの里でもお正月イベントとして、豪華にお寿司を食べたり、みんなで仲良く鍋をついたり、書初め、福笑い、カラオケ大会等、楽しい催し事をたくさん行いました。帰省できなかった利用者さんにも楽しいお正月を迎えていただけたと思います。

2016年12月18日、JSSスイミングスクール松阪様にて、水泳のイベント「楽しい水泳体験」を開催しました。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。

当施設のイベントにはじめてご参加いただく方も多く、初めて会う職員や、初めての場所に少し戸惑ったり恥ずかしそうにしたりする様子もみられましたが、受付近くのギャラリー席から見える25メートルの大きなプールにみんな笑顔になり、プールに入るのが待ちきれない様子でした。

イベント開始の時刻となり、着替え、入水前のシャワーをし、プールサイドで元気に挨拶をしてから、いよいよ練習スタートです。

まずはウォーミングアップとして水中歩行、水中でジャンプをしてから、人が乗れるくらい大きなビート板を使ってバタ足をしました。必死にバタ足をしてビート板を前に進めたり、ビート板の上に寝転んでゆらゆらと満足そうに水に揺られたりと、それぞれが自分なりに楽しんでいる様子でした。



次に広いプール一面を使って玉入れをしました。水面に浮かんだボールは様々な方向に漂っていきましたが、みんなでプールの端から端まで行ったり来たりしながら協力し合ってボールをカゴに入れていき、カゴがボールでいっぱいになるとみんなで拍手をして喜び合いました。

その後、大きなボールをみんなで押し合ったり、水中に沈めたリングを潜ってとったりしてから、最後に自由時間としてビーチボールや浮き輪を使って遊びました。

今回のイベントでは、水が大好きな方からプールに入るのが少し苦手な方までいろいろな方々にご参加いただきましたが、それぞれの泳力に合わせてプールを楽しめるような方法で練習を進めていくことによって、参加者の方々の笑顔をたくさん見ることができました。今後もみなさんが有意義な時間を過ごしていただけるようなイベントを実施していきたいと思っています！！

生涯を通して豊かになれる場所の提供を目指して。

2017年4月の障害者通所施設「まある」開所まで3か月を切りました。「まある」では放課後等デイサービスや就労支援サービスの提供を行います。子供から大人まで生涯を通して、色んな経験が出来るような場所にしていきます。喫茶店も併設していますので地域の方々とたくさんの交流ができることを期待しています。また、イベントなどもどんどん企画して行こうと考えていますので、沢山の方にお気軽に足を運んでいただけたらと思います。

「まある」は笑顔があふれる場所、心が豊かになれる場所にしていきます。

まわるよまわる笑顔の輪 みんなの笑顔が輝く場所「まある」

2016年12月17日から18日に行われた三重県障がい者芸術文化祭に、世古卓也さん、永田実さんが陶芸作品を出展しました。

世古さんは、「ライオンの家族」というタイトルで、大きさの違うライオンを作りました。作品のポイントとしては、オスのたてがみやメスのひげを丁寧に作られていました。ライオンをただ置くのではなく、列にして並べることで、家族の移動を表現しました。

永田さんは「自分の顔」というタイトルの顔とウサギを作りました。作品のポイントは、顔のパーツを正確に作り、永田さん本人は眼鏡をかけているので眼鏡も作りました。また、本人の好きなウサギを置くことで、ウサギを眺めている永田さんを演出しました。

今回、二人の作品には本人たちの意向もあり、作品の背景を職員と一緒に作成しました。世古さんの作品では、枯れた草を用意し草原をイメージした舞台を作りました。永田さんの作品では、山苔を用意し森をイメージした舞台を作りました。自分の顔として作ったものを紐で吊るし、上からウサギたちを眺めているようにしました。

今回、世古さんは尾鷲市長賞をいただくことができました。今後も世古さん、永田さんの陶芸作品が多くの方の目にふれる機会を作っていきます。



ライオンの家族



自分の顔

(2月)

2月18日松阪駅前楽市 松阪ベルタウン

2月19日手作り市・Cotti 菜カフェ 三重県総合文化センター

出店予定